

「市民参加懇談会 in かりわ」

開催のご案内

我が国はエネルギー資源に乏しく、その大部分を海外からの輸入に依存しています。一方、豊かさを求める生活のあり方が、エネルギー消費を年々高めています。また、エネルギー消費によって発生する二酸化炭素が、地球環境に影響を及ぼしています。そこで、

- わたし達がエネルギーを大切に使うためには、どういう暮らし方がいいか。
- エネルギー供給のあり方は、どうあったらよいか。
- いま、原子力発電に求められるものは何か。

このような課題について、皆さまの様々なご意見をお聞きし、本音で語り合う場として、「市民参加懇談会」が設立されました。

つきましては、『市民参加懇談会 in かりわ』を開催いたします。

年始早々のお忙しい中とは存じますが、多数の村民の皆さまのご参加をお待ちしております。

なお、この「市民参加懇談会 in かりわ」は、刈羽村役場のご協力の下、刈羽村有志の方々と原子力委員会市民参加懇談会の共同で開催するものです。

記

1. 日 時 平成14年1月15日(火) 19:00~21:00 (*開場は18:30)
2. 場 所 刈羽村 老人福祉センター(2階・大集会室)
3. 参加対象 刈羽村民の方どなたでもご参加いただけます。
当日は、直接会場へお越し下さい。
〔刈羽村〕
4. 発 言 者 刈羽村有志の方
〔原子力委員会市民参加懇談会〕
木元教子、吉岡斉 ほか
5. そ の 他
(1) 会場スペースに限りがあります(150席程度)ので、満席の場合は、刈羽村在住・在勤の方を優先させていただきます。
(2) この懇談会の内容につきましては、後日、市民参加懇談会ホームページ(http://aec.jst.go.jp/jicst/NC/nc_madof.htm)に掲載する他、刈羽村役場においても公開いたします。また、当日いただいたご意見は、原子力委員会に報告いたします。

〔ご連絡・お問合せ先〕

○「市民参加懇談会 in かりわ」事務局：TEL.03-3509-9196 (担当：田嶋、加藤、藤田)

((財) 社会経済生産性本部内)

○刈羽村役場 企画広報課：TEL.0257-45-2244 (代)

「市民参加懇談会 i n かりわ」関連新聞記事

別添のほか、

平成14年1月16日付 新潟日報 23面
毎日新聞（全国版）30面
毎日新聞（新潟版）25面
28面

にも記事が掲載されておりますが、使用許諾の関係で、今回は添付しておりません。
また、

平成14年1月16日付 朝日新聞（新潟版）25面
17日付 27面

の記事については、使用許諾の関係で、ホームページには掲載いたしません。

会談懇委力子原
で村羽劉

立地点初開催に100人

反対派は出席拒否



原子力委員会市民参加懇談会が刈羽村で開いた集会
会15日午後7時過ぎ、刈羽村老人福祉センター

東京電力柏崎刈羽原発のプルサーマルをめぐる住民投票で受け入れ反対が過半数を占めた刈羽村で、原子力委員会の組織・市民参加懇談会が十五日夜、立地点域に向いて住民の声を聞く初めての同懇談会を村民有志と聞き、約百人が参加した。第一回を刈羽でと呼び掛けた懇談会主任で評論家の木元教子・原子力委員は開催を詳細する一方、「テーマの絞り方など形式内容で六十五点」と自己採点した。

市民参加懇談会は昨年五月の住民投票後、国民の多様な意見を原子力政策に反映させようと原子力委が設置した。木元委員は原発発派にも参加を呼び掛けたが、「国がまず計画を白紙撤回すべき」と拒否された。このため、村側から推進・慎重の立場の六人、懇談会から科学ジャーナリストの中村浩英氏、吉岡資・九州大学教授ら七人が出席。原子力委員二人も傍聴した。

村側の男性は「投票結果は電電の地元対策が公平を欠いていたから。村民の理解が足りないのではなく、電電が地元感情を理解していない」と述べた。別の男性は「行政は原子力のネガティブ(否定的)な情報を出さない」「牛肉同様、プルサーマルも少しでも不安があれば住民はいらないと思う。正確な情報が必要」とし、女性も「原発の危機管理をしっかりとやってほしい。住民投票では高齢者、若者の不安をあらわされた面があった」と述べた。

吉岡教授は「原発を廃止する交付金制度は、電力消費者が税金を負担して迷惑施設を地域に押しつけるものでよくない」、懇談会メンバーの評論家・井上チ子さんは「高齢化社会では電気が不可欠。暮らしの中で矛盾を感じる。消費地だけの問題ではない」と述べた。

木元委員は終了後、「プルサーマルはいやという地元の思いは伝わったが、必要が備わっていないのはショックだった。ノー」という答えを含め、多様な意見の積み重ねが政策を変える」と述べた。懇談会は三月初旬に柏崎市でも開催を検討している。

反対派が批判の声明

原発反対刈羽村を守る会(佐藤武雄会長)は十五日、市民参加懇談会について「住民投票結果を骨抜きにする企画」と批判する声明を出した。会には木元原子力委員のプルサーマル推進発言や、賛否の立場の村民と懇談会を共催するかのような広報に反発し、「反対派の声も聞いた」との口実になることは目に見えている。警戒を強め、プルサーマルの完全中止を目標」としている。

「住民投票結果を骨抜きにする企画」と批判する声明を出した。会には木元原子力委員のプルサーマル推進発言や、賛否の立場の村民と懇談会を共催するかのような広報に反発し、「反対派の声も聞いた」との口実になることは目に見えている。警戒を強め、プルサーマルの完全中止を目標」としている。

羽 原子力委の市民参加懇談会 羽 反対派欠席で開催

内閣府の原子力委員会が設置した「市民参加懇談会」が十五日夜、刈羽村で懇談会を開き、村内外から約九十人が参加した。昨年五月のプルサーマル計画実施を巡る住民投票で反対票が過半数を占めたことを受け、同委員会の本元教子委員が村民に開催を働きかけたもの。しかし原発反対派村民は出席しなかった。

懇談会はエネルギー政策に対する国民の声を聞くための目的で、これが全国初の開催。消費生活アドバイザーや科学ジャーナリストなど同懇談会の構成メンバーから七人と、六人の地元住民が中心となって約二時間意見を交わした。メンバーからは「政府は一度決めたから口先だけの説明で本音の議論をしない。住民投票をきくか、説明方法や方針を転換する」と、初めて対話が成り立つ「刈羽」国の建設を望む声も聞かれた。

「原子力反対刈羽を守る会」は、懇談会を「住民投票の結果を再検証とする狙い」で企画推進されたとして、参加を拒んだ。また、二百人に、プルサーマルを巡り賛否双方の村民が幹事となって組織する「明日の刈羽を守る会」が予定されていた。

「不公平感を感じる」などの意見が疎解なく続き、根拠の定まった議論にはならなかった。

内閣府の原子力委員会が設置した「市民参加懇談会」が十五日夜、刈羽村で懇談会を開き、村内外から約九十人が参加した。昨年五月のプルサーマル計画実施を巡る住民投票で反対票が過半数を占めたことを受け、同委員会の本元教子委員が村民に開催を働きかけたもの。しかし原発反対派村民は出席しなかった。

懇談会はエネルギー政策に対する国民の声を聞くための目的で、これが全国初の開催。消費生活アドバイザーや科学ジャーナリストなど同懇談会の構成メンバーから七人と、六人の地元住民が中心となって約二時間意見を交わした。メンバーからは「政府は一度決めたから口先だけの説明で本音の議論をしない。住民投票をきくか、説明方法や方針を転換する」と、初めて対話が成り立つ「刈羽」国の建設を望む